

## 第31回 大鹿村リニア連絡協議会質疑応答概要

日時：令和6年3月21日 午後7時00分から

場所：大鹿村交流センター

### 1. 県発注工事について

○二軒屋の排水工事はやっていただきたいと思っていたのですが、四徳大橋西の箇所も雨が降ると水が溜まっている。道路幅の半分くらいまで水がついてしまうのでこちらも対応をお願いしたい。

A：四徳大橋西の箇所は昨年ご要望いただき凹んでいる箇所を対応させていただきました。水の状況は再度確認させていただき対応を検討させていただきます。

○落合トンネル工事の説明が先日ありましたが、住民説明会で出た意見に対してどのような対応を行うのかお知らせいただけるのでしょうか。これに対する説明会をもう一度開いていただけるとありがたい。

A：通行形態を確認しできる限り住民の方に負担のないようにしたいと考えています。変更の内容によっては、説明会の場を設けたほうがよろしいかなと思っています。何らかの形で確実のご報告させていただきます。

○下樽渡橋の完成はいつでしょうか。

A：現在令和7年度の完成を予定しています。法面工事等がありましたので状況によっては期間が延びる可能性があります、その際には報告させていただきます。

### 2. 南アルプストンネル工事・伊那山地トンネル工事について

○冬の間、当初予定していた発生土の搬出が説明の中では少なかったわけで、土曜日にも運休になりました。これだけ減ったということは工期に関して何らかの変更ができてきているのかお聞きしたい。

A：南アルプストンネルでは現在、蛇紋岩区間の掘削を行っています。また伊那山地トンネルでは中央構造線の部分にかかっており、どちらも進捗が出ていない状況です。その分を仮置き場Bから搬出したりしていますが、全体としては少ない状況です。今後ですが、南アルプストンネルにつきましても、まだまだ課題がある中で2026年11月までに掘削が終わると申し上げてきまし

たが、なかなか厳しい状況であるというところです。現在の進捗率を踏まえてどのくらいの見通しで掘削が完了するのか細かい点を確認しています。また改めて今後の予定が確認でき次第ご説明したいと考えています。

○予定していた工事の目標値に対して達成率はどのくらいなのでしょう。また今の時点で2026年11月の工事終了は難しいことを断言されたということでもよろしいのでしょうか。

A：全体の進捗を数字では申し上げにくく、山の状況からも変わってきますし、本坑、先進坑、ダンプが通りますので拡幅部があり一概に延長でどのくらいと言うことは申し上げられないのですが、掘削の延長としては3割から4割くらいの部分で推移している認識であります。よって、先ほども申し上げたとおり、現在の進捗などを踏まえると厳しい状況ではあります。

○本村の観光の来村者はコロナを開けても減少していて歯止めがかからない状況です。2026年11月に終わることに光を見ていて、JRや工事関係者の方にも協力していただいていることはわかっているのですが、早く終わってほしいから我慢してきて、それがいとも簡単に目標にできましたが出来ませんではおかしなことです。このような工事の遅れについて何のペナルティもなく痛みつけられた方がずっと我慢することはどうかと思う。村は遅れに対して強い姿勢をみせてほしいし、議会は村を追求していただきたい。JRはこれまで以上に地元産業に対してペナルティではないですが協力いただくようにしていただかないと、工事が進みませんでしたでは済まない話だと思います。

A：トンネル掘削に関しましては全力で進めていくことには変わりはありません。この先どのようなことになるのか含めてご説明できる段階でしっかり説明させていただきたいと思います。また一方、大鹿村の観光についてはこれまでもアピールをさせていただいていますが、これは引き続き行ってまいりたいと考えています。その辺りご理解いただきますようお願いいたします。

A：村としても住民負担軽減という点から工期を守っていただきたいことは言っていますが、現状遅れがでていることも事実です。これに対してペナルティということは難しいですが、それよりも前向きに観光振興に繋がるようにJRをお願いをして、イベントなどで観光振興の後押しをしていただき、また200人を超える作業員の方が村内事業所をしっかりと利用してもらうよう申したいと思います。いずれにしましても進捗状況につきましてはしっかりやっていただくよう申し上げてまいりたいと思います。

○青木川工区のトンネル視察に青木地区の方をお招きいただいた時に出たお話をお伝えさせていただきたいと思います。重なるお話ですがいつ頃工事は終わるのか、飯田駅は本当にできるのか、トンネル工事により水はどのくらいでているのか、このようなお話がありました。またトンネル見学に用事あり行けなかった方もいたので定期的に行われると良いと思います。

A: 完成時期は2027年以降ということになり、静岡県が着手できていない状況なのでいつ完成するのか申し上げられませんが、先ほど申しあげたとおり早く終わらせるよう進めていきます。トンネル視察につきましては、すぐにできるわけではありませんが、タイミングを見て案内させていただきたいと思います。トンネル内の水に関しましては、細かい数字をお答えすることはできませんが、青木川工区で毎分10000くらいの水が出ている状況です。詳しい内容は年次報告に載せています。突発的に水が増えるようなことあれば、大鹿村、自治会の皆様には連絡することになっていますが、今のところ突発的に湧水がトンネル内にでてきている事象はございません。また長野県駅ですが、飯田市北条地区に間違いなく駅を作っています。駅周辺の用地取得も順調に進んでいます。

○半の沢法面工事についての説明で液状化という表現が出てきました。石川県能登半島地震のこともあり気になったので心配になるので説明をお願いしたい。

A: 先ほど長野県より説明のあった法面工事と盛土工事は場所は近いですが別工事です。法面工事は、県道松川インター大鹿線の路肩で風化により崩れてきている箇所の風化防止工事となります。また盛土工事はJRが進めていますが、半の沢に砂質のゆるい層があり液状化が起きる可能性があるため委員会でも指摘を受けており、その懸念される土砂をすべて撤去して入れ替える作業を行っています。

○トラックの台数が減ったのは液状化のための工事が原因で止まっているということでしょうか。

A: 液状化対策工事箇所は、半の沢直下となります。この位置は、半の沢へ土砂を運搬するルート上であり、土砂を入れ替えている間はダンプが進入出来ないため、半の沢には運搬していないということです。この作業が終われば通常の運行になります。

○12月4日に釜沢地区でトンネル工事見学会を行った際、翌日から小河内沢の下を掘削するので湧水がある程度の量がでるかもしれないと聞いていましたが、その後の状況はどうかお聞きしたい。

A: 以前は小河内沢手前だったと思いますが、その時点で全く湧水が出ていなかったわけではなく所々で湧水は出ています。おおよそ、釜沢の先進坑では毎分7000程度出ている状況です。掘削に影響するような水量でもなく突発的な滞留水というわけでもなく、大量の湧水が出ている状況ではありません。湧水の状況などは、釜沢の懇談会で改めてご報告させていただきます。今の状況から、小河内沢川からは水を引っ張っていないと考えています。

○川の下を通るということは、川の水が湧水としてトンネルの中に入ってくるのでしょうか。

A：川の周辺にはいろいろなたまり水があったりします。そのような場所からトンネル掘削したときに水がでてきているようです。川の下を掘削したことで川の水がごっそり入ってくるというわけではありません。

○第4回環境影響評価技術委員会会議録が公開されているが、報告の中で釜沢周辺のクマタカの繁殖が確認されていない。またモメンズルという希少価値のある植物を移植したが個体が確認できていない結果が記されています。貴重な猛禽類がいなくなるような発生土運搬や重機の音などの取り扱いにこれまで以上に気を配っていただきたい。

A：猛禽類や希少種の取り扱いについては常に慎重にやっているところでございます。希少種の話については具体的などは本日申し上げることはできませんが、クマタカや他にも含めて継続して確認しています。営巣期を避けて工事をするなど、有識者の先生方とも毎年相談しながら工事を進めていますので引き続き慎重に進めてまいりたいと思います。

○2027年の開業が難しいという話がありましたが、先ほどの説明ですとトンネル掘削の進捗率は3～4割程、当然これからJVとの変更契約を見据えると、ある程度具体的にこれから先どのくらいの工期になるのか説明していただけないでしょうか。

A：工程を変更する場合は、当然、しっかりと住民のみなさんに説明する機会を設けたいと思っておりますが、現在、今後の掘削の見通しなどを確認していますので、確認出来次第、しっかりご説明させていただきます。

○前回の協議会の時に小渋川橋梁工事、変電所工事について来春を目途に説明いただけるというお話をいただきました。その辺はいかがでしょうか。

A：来春目途ということで進めていりましたが、今の段階で時期は申し上げられません。これも準備が整い次第ご説明させていただきたいと思います。

○前回の回答で公開の場で説明会を開催していただけることは承知していますが、工期が具体的になぜどのように遅れるのか、その結果1日当たりの車両台数が何台になるのかといった説明は不可欠であると考えます。また、工事車両台数は大鹿村だけでなく周辺自治体に大きな関心事でもあります。

A：変電所の説明、これからの工程等についてなるべく早い段階で説明させていただきたいと思っております。

○長野県からJRに対して工事沿線における環境調査の助言について今月11日に通知があったと思われませんが、これに対してJRは具体的にどのように対応するつもりでしょうか。ホームページ

ージにて公表すると聞いていますがその辺はいかがでしょうか。

A：JR から環境保全計画書等を提出し、これに対して長野県より助言をいただいています。これまでも助言に対してしっかり回答した上で工事を進めていますので、今回も同様に助言いただいたものに対してお答えをして、工事を進めていきたいと思えます。

○いつ頃公表されるのでしょうか。

A：JR が提出する環境影響検討書や環境保全計画書を受けて、長野県で環境影響技術委員会が開かれ、専門の先生方に審議をいただき、また長野県よりパブリックコメントもされ、それらの意見を取りまとめたものを県の助言として弊社が受けています。助言が出てからおよそ2カ月後が回答期限となっています。回答はJR でなく長野県ホームページにて掲載されることになっています。また、もしこの回答について説明が必要と要請があれば、この協議会で説明させていただきたいと思えます。

○湧水量の把握で計測器にトラブルがあり、そのままであったことを長野県環境保全委員会より指摘を受けています。この場で説明がありませんがこれはなぜなのでしょう。

A：JR で設置している計測器は、村内数十か所に設置しています。それぞれの水の量、井戸の水位、川の流量などいろいろ調査を行っています。その中で災害があれば川の流量が増え、計測することができないこともあります。また、私たちが簡単に行けないようなところにも計測器を設置しているため、そこへ行って初めて計測器の不備に気付くこともあります。しかしながら、もし仮に2箇所計測できなかったとしても他で多数箇所の計測をしているので何か影響するとは考えていません。データが抜けてしまったところもありますが全体として細かく計測しています。また、欠損しているなどの情報についても年次報告にはその旨記載しています。

○できれば細かいところではありますが信頼関係という点から報告があってもよろしかったのではないのでしょうか。

A：ご意見は伺いました。ただ、この連絡協議会は大鹿村主催で開催されますので、ここでご説明ご報告する内容についてはあらかじめ協議した中でお話させていただいています。このような話も必要かどうか大鹿村と内容について確認しながら必要であればこの連絡協議会で説明させていただければと思えます。

○この件に関してですが湧水量や先ほどお話もあった生態系に関する説明はご説明していただいた方がよろしいのではないのでしょうか。

A：先ほどお話させていただきましたとおり、大鹿村の連絡協議会ですので村と調整させていた

だければと思います。

A：村でも何か特に大きな影響がでていたりとか、報告すべきデータが出てきているようであればしっかり報告していただくように申し入れさせていただき、JR と調整します。

○年初の能登地震等を念頭においてこの工事期間中及び開業を見据えた防災体制について具体的な避難計画はどうなっているのでしょうか。

A：工事期間中につきましては、定期的に避難訓練、消火訓練を実施しています。現場に消防署からも来ていただき、搬送、坑内での消火、通信訓練等を実施しています。今後掘削延長は伸びていきますので引き続き対応してまいりたいと思っております。また開業後の避難等については具体的なところは決まっています。これからしっかり考えていきたいと思っております。

○環境影響調査の結果が6月の連絡協議会の終わった直後の6月中の間に年次報告がされ公表されます。要望になりますが、連絡協議会の開催時期をこの年次報告が出た後の週で開催していただきたいと思っております。それによって、例えば湧水が増えたとか、水位に影響があったなど直接住民に関係することを連絡協議会でご報告いただけるとありがたいです。

A：本当に大きな影響があるときは協議会の場を待っている場合ではありませんので即座に大鹿村、関係する地元の方に連絡することは必ず行っていきます。一方、水の減少によってどの程度、影響が出るのかを判断することは難しいため、大鹿村と事前にお話しさせていただき、協議会でお伝えすることを調整させていただきます。

A：協議会の開催時期につきましては6月の週後半を選んで開催していますが、JR や長野県と協議させていただきスケジュール的に折り合いがつくようであれば、ずらして開催することはできると思います。

○静岡県で着工の目途がたっていない中で、南アルプス生態系の影響を危惧されています。自然環境への対応についてきちんと情報が開示されていれば、どういう影響があるのか静岡県にも参考になるという気もします。専門の先生方の指摘に敬意を持って対応していただきたいと思っております。

A：環境影響評価技術員会での先生方の意見、また長野県からパブリックコメントの意見を含めて県助言という形で受領しています。これに対して事業者の対応方針をきちんと回答しています。また長野県環境部にてホームページも公開されています。またこの内容について村と相談して、説明する機会をいただけるのであれば説明させていただきたいと思っております。

○大鹿村に直接関係はないのですが、飯田市の立ち退きは順調に進んでいると話されていましたがどのくらい進んでいるのでしょうか。

A：長野県駅に係る用地取得は全員終わりました。しかしながら、移転先が決まっていない方もいらっしゃると思いますが、契約という点では100%終わりました。

○飯田市へ搬出予定をする要対策土ですが、橋梁で5,000 m<sup>3</sup>使うそうですが、大鹿村で出ている量はどれくらいでしょうか。また今後変電所の造成に使うこともお聞きしますが先進坑で出た量を考えれば、本坑で出る量もある程度予定できるのではないかと考えます。どのくらい予定されているのでしょうか。

A：現在大鹿村で仮置きしている量が5,000 m<sup>3</sup>になります。これらは先進坑で出たヒ素が入っている対策土になります。今後本坑掘削するにあたり同等もしくはそれ以上出る可能性はありますが、今の段階では具体的な量まではわかりません。

○今仮置きしている5,000 m<sup>3</sup>は飯田市へ搬出して、これから出てくるものは変電所で使う予定でしょうか。

A：飯田市へ搬出する量は全部で5,000 m<sup>3</sup>ですが、1度に運ぶことは出来ませんので何年かに分けて1,000～1,500 m<sup>3</sup>ずつ3回に分けて運ぶことを想定しています。変電所で活用しようと考えているのはホウ素を含んだ対策土を擁壁の中詰め材に活用したいと考えています。現在仮置きしている5,000 m<sup>3</sup>をそのまま飯田市へ搬出するかどうかは、今後の対策土量とのバランスを見て決めていきたいと考えています。

#### 4.送電線工事について

意見なし

#### 5.その他

○前回の連絡協議会の質疑応答についてですが、しっかり起こしていただき記録としてもよかったですと思います。また外に対してこういった質疑応答を行っていることを示すことにもなるので引き続きお願いしたい。

A：議事録につきましてはご意見いただきましたとおり作成するようにします。

○この連絡協議会は説明会ではありません。自治会長が全ての住民を代表しているわけでもありません。従って住民に周知、あるいは住民から意見を聞くという場合には住民説明会を開催していただきたいと思います。

A：村では工事説明については JR 東海と協議させていただき、JR 東海の方で住民説明会を実施する予定でスケジュールを検討させていただいていると認識しています。

A：南アルプストンネル工事も伊那山地トンネル工事においてもこれまで地元の方々には工事説明会を JR 主催で開催してきました。説明会のやり方については大鹿村と協議させていただきますが、基本的には JR 東海が主催となって地元住民の方に対して開催させていただきます。先ほどお話しました小渋川変電所工事、工期延伸の状況になった場合の工程の説明等はきちんと住民説明会を開催させていただきます。

○村全体にかかわることであれば、地区限定でなく村全体として住民説明会を開いていただくように要望します。

## 6.事務局からの報告

意見なし